



一週間の間に東西の博物館を見学する機会を得た。一つは横浜みなとみらいで開催された「海のエジプト展」で、もう一つは九州国立博物館で好評だった「阿修羅展」である。

通常のエジプト展は何度も見

ているが、海の中からは発掘された遺物の展示は日本初公開とのこと。有名なクレオパトラが君臨し、その後、海に沈んだ古代都市アレキサンドリアなどを中心とした展示で昔、世界史を教えた経験もあるので大変興味深く見学したが、中でも5分を超すファラオの石像は圧巻だった。

一方、阿修羅展は日本のものなので文化的違和感はない。国

宝クラスの仏像が何体も展示されていたが、やはり阿修羅像はひときわ存在感を示していた。

展示方式もケースで囲わず直接見ることができ、良いアイデアと感心した。

エジプト展はおよそ2千年以上前のもの。阿修羅展は1300年ほど前。どちらも長い時間を経て現代人の前にその姿を見



草野 義輔

せているのだが、東西文化の違いを感じさせてもくれる。私の単純な印象では西の文化は「硬」、東の文化は「柔」である。

やはり石の文化と木の文化の違いであろうと思う。

東西の貴重な歴史的遺産を目前に悠久の歴史を振り返るとき、現世の雑念を一時的にも忘れさせてくれるのがあるがたい。

(昭和学園高校理事長・日田市)